

図書館だより

第8号 2024/1/30

石巻工業高等学校 図書館



2024年になりました。今年の目標は決めましたか？みなさんが目標に向かって頑張れる1年になりますように…☆体調管理をしっかりと、元気に過ごしましょう！

返却し忘れていた本はありませんか？



図書館では本の点検作業をしています。貸出期限の過ぎている本は、速やかに図書館へ返却願います。もし手続きをしないまま本を借り出している場合があります。そちらも返却をお願いします。特に3年生は今月中に忘れずに返却してくださいね！

※本は、廊下の返却ボックスに返すこともできます。



3年生返却期限：1月31日（水） ※卒業前に必ず返却してね！

クラス別貸出冊数 (2024. 1. 25現在)

今年度の多読賞は1月31日(水)までに貸出した本の冊数で決定します。入賞者には賞状があります。

M1	E1	C1	IC1	A1	M2	E2	C2	IC2	A2	M3	E3	C3	IC3	A3	(冊)
83	22	7	151	35	2	57	3	4	36	13	18	7	5	42	

新刊図書ピックアップ



『京都東山邸の小鳥遊先生』 望月麻衣／著 (ポプラ社)

小鳥遊(たかなし)葉月は35歳。大学生の妹の美沙と京都東山の邸宅に住んでいる。葉月は人気脚本家だったが、あることが原因で最近では書けない日が続いていた。ある日、小料理屋で俳優の鈴木英輔と偶然出会う。俳優としての方向性に悩む英輔に、葉月は「あなたの先生になってあげる」と申し出るが…。

この本の帯には「本を読む元気がないときこそ読んで欲しい！！」という言葉が書かれています。京都が舞台の作品なので、学習旅行で訪れた場所も出てくるかも知れません。笑いあり、涙ありのエンタテインメントの世界を味わってみてください。

2月の開館カレンダー

月	火	水	木	金
			2/1	2
			0	0
5	6	7	8	9
0	0	0	0	0
12	13	14	15	16
振替休日	0	0	0	0
19	20	21	22	23
0	0	0	0	祝日
26	27	28	29	
0	0	0	0	

第170回
芥川賞・直木賞受賞作
☆決定☆

1月17日(水)に選考会が行われ、第170回芥川賞・直木賞の受賞作が決定しました！
図書館には、ほかの候補作の作品もありますので、ぜひ手に取ってみてください。

☆芥川賞受賞☆
『東京都同情塔』
著者：九段理江
出版社：新潮社

☆直木賞受賞☆
『ともぐい』
著者：河崎秋子
出版社：新潮社

☆直木賞受賞☆
『八月の御所グラウンド』
著者：万城目学
出版社：文藝春秋

「全校読書会」の記録

令和5年12月7日（木）に実施した「全校読書会」では、クラスごとに同じ集団読書用テキストを読み、意見を出し合いました。今回は各クラスから出された意見や感想を紹介します。

1学年



M1 『喝采は「アイ・ラブ・ユー」』 黒柳 徹子 著

・外国での公演が終わり、ろう者の人たちがみんな手を高く上げ、「アイ・ラブ・ユー」のサインが喝采のように上がったことが心に残りました。それは、最高のスタンディングオベーションだと思います。

E1 『彼女のアリア』 森 絵都 著

・不眠症だった主人公が藤谷さんと出会い、心情が変化していく様子が面白かったです。主人公ははじめから不器用な優しさを持つ藤谷さんが好きだったのだと思います。ウソから卒業して二人でまっすぐ未来へ進んでほしいです。

C1 『夕日へ続く道』 石田 衣良 著

・不登校の雄吾に源ジイが優しく寄り添う情景が描かれており、その言葉に胸を打たれました。源ジイから声をかけられ、手作りのおにぎりをもらい、心をひかれて仕事を手伝うようになった雄吾は、源ジイから生き方を教わったと思います。

IC1 『狐フェスティバル』 瀬尾 まいこ 著

・主人公の川居くんの「狐がえり」に対する気持ちの強さに驚きました。三崎さんを「狐がえり」に誘い、断られるどころか、皮肉を言われたりしても、様々な方法であきらめずに誘い続け、最終的に心を開くことが出来たところが印象に残りました。

A1 『千代に八千代に』 重松 清 著

・最後の場面のひいおばあちゃんが、八千代さんにおかゆを食べさせてあげるところが一番心に残りました。相手を無意識に求めてしまうほどその人のことが好きというのが「友だち」だと考えました。

2学年



M2 『練習球』 あさの あつこ 著

・律が野球をやめようと思っていたところに、真郷と出会い、「野球やろうや」の一言で思いが変わったことが心に残りました。友だちであり、同じ目標を持った二人は、性格は違えど、信頼し合える関係だと思いました。

E2 『ムーンライト・シャドウ』 吉本 ばなな 著

・自分にとって大切な人と二度と会えなくなったとしても、幸せに向かって、未来に向かって進んでいくしかないと思いました。変わっていく日々一つ一つを大事にしていきたいと思います。

C2 『鼻』 芥川 龍之介 著

・「人間の心にはたがいに矛盾した一つの感情がある」という一文が心に残りました。自分のコンプレックスのようなものを無理して直そうとすると逆に良くないこともあり、無理せず受け入れることも大切ということが分かりました。

IC2 『夏の階段』 梨屋 アリエ 著

・一番心に残ったのは、玉木くんが本当は花火を楽しんでいたのに、あまりのしょぼさに失笑したと言い張るところです。どんなに難しい考えを持っている人でも必ず人間らしい一面があるのだなと思い、読んでいて飽きませんでした。

A2 『ガイド』 小川 洋子 著

・「人生にはたくさんの出会いがあり、その中には、喜びや悲しみが待っています。しかしどんな困難にも立ち向かい、前を向いて進むことが大切です。」という言葉が心に残りました。困難にぶつかった時は逃げずに向き合いたいと思います。

3学年



M3 『最後の一片』 O・ヘンリー 著 大久保 康雄 訳

・この本のラスト2ページから、物語の進みが急変して、いろいろな気持ちが押し寄せてきました。ベールマンさんがジョンジーのために、最後の一片を描いており「傑作をかく」というのが本当の言葉になり、伏線がすごいと思いました。

E3 『赤毛連盟』 アーサー・コナン・ドイル 著 鈴木 幸夫 訳

・赤毛連盟に採用されるときに、「絶対に4時間建物の中にいなくてはならない」というところから違和感があり、引き込まれていきました。途中途中に出てくるハウムズの考えや、ものを含んだ言い回しなどがとても面白かったです。

C3 『高瀬舟』 森 鷗外 著

・親を亡くし、助け合って生きてきた兄弟。その弟を苦から救ってやるために、弟の命を絶った兄は罪人なのか。日本では現在、安楽死は認められてはいませんが、色々検討し、その人が幸せな選択ができればいいと思いました。

IC3 『伊豆の踊子』 川端 康成 著

・青年が少女と出会ってからの心境の変化が伝わってくるとともに、人生は思った通りにならないものと思いました。人生は死ぬまで青春だと思えますが、一番青春を感じるのは高校生だと思えます。残りの高校生活を悔いなく過ごしたいです。

A3 『ペラルーシの透明な夏』 佐藤 しのぶ 著

・医学や薬の進歩だけでは治すことができない病に対して「歌」という音楽の力で子供たちの心を癒やすシーンが心に残りました。毎日何事もなく平和に過ごしている人たちよりも、放射線の被害を受けた子供たちの方が、これからの未来を想像し、強く生きていることがすごいと思いました。